

勝林寺寺報

キラー T

「がん」をやっつけるには、今まで大抵三つの方法がとられていました。一、外科手術 二、薬物療法（抗がん剤）、三、放射線療法です。とにかく外からの力でもつて「がん」をやっつけようというわけです。これにはご存知の通りいろいろな症害がおこるわけです。

最近、「がん」治療について、今までと違つた方向が考えられ、しかも顕著な効果あがりつつあるということです。

「今までのように外からの力でがんをねじ伏せるといつた西洋医学信奉の考えかたから脱却すべき時にきていると思います」とこの専門の先生はおっしゃっています。

外からの力でもつて「がん」をねじ伏せるのではなくて、人間生れたそのときから人間のかからだの中にもつている「免疫機構」―病気のものとたたく体のしくみ―を有効に引き出し強めて、それでもつてがんを自然に対治していきうという方法です。「免疫療法」といいます。

リンパ球は胸せんという処でつくられるT細胞と骨髄でつくられるB細胞が百億個もあるのだそうです。そしてそのT細胞のなかには「キラーT」という、「がん細胞」をやっつける力をもつたものがあるといえます。「キラーT療法」とよばれるこの免疫療法は、がん患者のからだから「キラーT」を取と出し、これに「がん細胞」の目じるしに向つて、くいついてゆく力をつけるための培養をした後、それをもとのがん患者のからだに返してやると、この「キラーT」は、たちまち適確にがん細胞にくらいつき、細胞をバラバラにし終にはアワのようにしてしまふと言ふことです。

しかしこの方法は、まだ実験段階ですし、また、だれのキラーTもがこのように動くとはかぎらないのだそうです。いろいろな問題もあつて少くともこの療法の有効性が認められるには

これからまだ最低三十の症例が必要だそうですし、少くとも三年以上かかるだろうと見られています。

この寺報に、こんな医学のことを書いたりしたことは、何ともおもしろいことですが、しかしこう言う医学の方向は、何か大事な事を私に教えてくださつていふように思つたのです。

「ほとけ様」になる教えが仏教ですが、私たちは長いあいだ、「ほとけ様」つてどこにいなさるのだろう、如来さまになるにはどちらに向いて歩いていつたらよいのだろうといろいろさがしてまいりました。

それからまた、まよいや煩惱から脱け出して悟りを開きほとけになるにはどんな方法があるかと、学問の力をかりたり修行の力で悟ろうとして苦勞してきました。

親鸞さまもまたそうでした。ひえい山で二十年もの長い間、学問・修行という方法で悟りを求めたのです。

「如来さま」は遠いところで、学問修行をする人を待つておられるのではないよ。

いつでもどこでも、いえ、如来さまから一番遠いところで苦しんでいる人のいのちの中に、はたらいていらつしやるんだよと、私たちがめざめざせてくださった人々がいいます。

「美しい白いはすの華は、きたないドロのなかに咲き出すではないか」
「仏性（ぶつしよう）」は「一切衆生」のうえに「悉く有る」。

「南無阿弥陀仏」というおよび声をもつて、私がかうまれるより十劫も前から、私にはたらきつけてくださったその如来さまの力に気づき信じ、如来のいのちのなかに往生（生れかわる）する道をもつて示し頭わしてくださったのが親鸞さまでありました。

科学と宗教とはその思いが全く違います。一方を他方になぞらえることも危険です。これはたゞの愚かな連想にしか過ぎません。



1988年 勝林寺 婦人会 案内

年に一度の私たちの仏縁總會です。会員満れなくさそいあつてお参りください。おみのりにあわせていただきます。

ご案内申し上げます。

日時 七月九日（金） 前九時半開会

- 開会 ばつ（「真宗宗歌」）
- 新入 員め（「らいはいのうた」）
- おと 会と 挨拶（住職）
- 会法 話（住職）
- 会務 報告（住職）
- 役員 選任（住職）
- 事業 計画（住職）

講話 竹村祥子・松下法洋 先生

ありがとう

あるはずのないものが今ここに恵まれている。
有ること難し
不思議なご縁で出会えているあなたに。
「有難う」
のことばをおくろう。

世界には感謝をあらわす美しい言葉が沢山ある中で、「有難う」ほど、思想性に富んだ言葉はありません。おそらく仏教の「縁起」の考え方から生まれてきたことばでしょう。今あることがらの奥に、なみなみならぬ意味を感じとって、それに驚きそれに感謝する

七月のこよみ

- 二日 山田健一氏宅初参式
- 二日 仏具仏壇精掃奉仕・真覚寺水代経
- 三日 出石組仏壇連綿總會（勝林寺） 中島美氏宅法事 真覚寺水代経法事
- 四日 西池卓馬くん一行帰園 高福寺水代経
- 五日 兼井征夫氏宅百ヶ日 高福寺水代経
- 七日 仏壇作高展小澤灌備 勝林寺水代経
- 八日 勝林寺水代経
- 九日 勝林寺仏壇總會・永代経、正福寺水代経
- 十日 兼井実氏宅忌明け、正福寺水代経
- 十一日 但馬地区仏壇研修会（豊岡東福寺）
- 十二日 阪神地区仏壇研修会（西宮西福寺）
- 十六日 「仏教と医療」福祉の懇話会（京都）
- 十七日 「安房（あんご）」（本山）

八月

- 一日
- 二日 兵庫教区少年連盟「サマースクール」（勝林寺）
- 三日

~~~~~  
 勝林寺仏壇会長長平野稔氏は今回出石ライオンズクラブ会長に選任されました。\*寺の書院便所の改築が六月末日完成しました \*アメリカから後継坊守と卓馬・由衣の三人が七月四日一時帰国します。卓馬はしばらく弘道小一年に入れていると聞きます。  
 ~~~~~

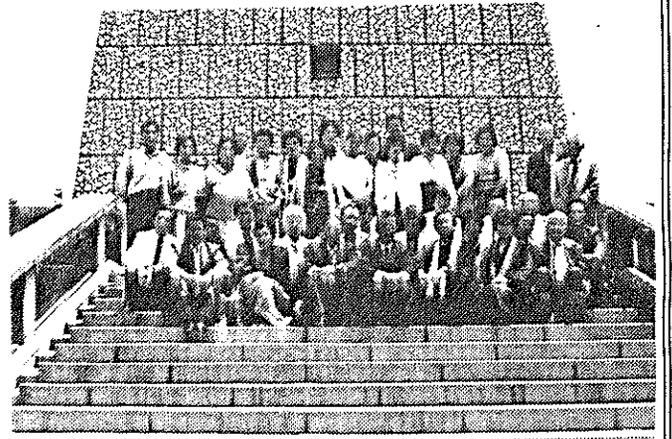
永代経「案内」案内

- 七月八日 夜八時
- マイクロバスが送迎します。
- 九日 仏壇總會。作品展示会
- 法要 昼二時

別便にてご案内の通り永代経がつとまります。おそろいで御参り下さい。



勝林寺仏壯仏婦研修旅行
大谷本廟 納骨式



六月四・五日恒例の研修旅行。参加者四十名。京都で納骨法要を勤修し「ぎふ市」を中心に観光しました。とくに仏壯役員の方の献身的なお世話で楽しい有意義な研修でした。

出石川原町の亀井ちあきさんはおめぐみの中で今年八十八の米寿をお元気に迎えられました。その上ちあき様の喜びはよめの幸枝さんが還暦をいっしよに迎えたこと。喜びをうたいました。

みほやちあき

ちあきさんおめでとう

ちあきさんおめでとう

ちあきさんおめでとう

ちあきさんおめでとう

ちあきさんおめでとう

ちあきさんおめでとう

ちあきさんおめでとう

勝林寺仏壯のあゆんだ道

六月五日、丹波「たんば田園交響ホール」において開かれた兵庫教区仏壯年連盟研修会で、亀井孝氏（勝林寺仏壯前会長・出石組仏壯連盟会長）が発表した原稿です。各方面からの注目と賛辞をえました。

ここに掲げてあります今年度のテーマには、二つのことが言われております。

一つは「組織の充実」ということであります。具体的には言うならば、どの寺にも仏壯が出来るようにすること、それからそれぞれの単位仏壯においても仏壯役員を一人でも多く誘って増やしてゆこうということであり、これは仏壯創立以来の努力目標でありました。

第二番目に、テーマに掲げてありますことは、「基幹運動」を強力に押し進めていかなければならないということであり、基幹運動とは申すまでもなく全員が関与し伝道して、お互が差別をしない差別を許さない社会をつくる、その運動に全員が立ちあがる、そういう運動を進めてゆこうというのであります。

こういふ二つのことがこのテーマのなかに願われているように思います。けれども、この二つのことからは決して別々のものではないと、いえ、別々のものであつてはならないものであります。

と申すことは、基幹運動に真剣に取り組むなかで、はじめて会員も増え組織も拡大するのだと云うことでもあります。

もつとはつきり言いますと、基幹運動もなにもしないでおいて、たゞ会員集まれ・組織をつくれの進軍ラッパを吹いているだけでは人は集まってくる、会は出来ません。とにかく運動するのです。とにかく動くのです。そしたら必ず仲間が増えてくるはずで、「徳孤ナラス、カナラス隣アリ」というおしえがあるではありませんか。基幹運動に取り組むなかで友の輪を拡げてゆくというものがこのテーマの示すところであると思

ところでこの「基幹運動」でありますけれども、どうもあまりはつきりしません。何をどうやってゆけばよいのか正直なところ私たちもはつきり分らないまま今日まで歩んで参りました。今でもこれが「基幹運動」だとはつきりつかめていない訳ではありません。が、ふりかえつて今、これが基幹運動ではなかつたのかと思ひ当る私たちのさゝやかな実践を紹介してみたいと思ひます。

私たちの住んでおります処はいわゆる過疎地であり、私のお寺のご門徒は三十Kの広い範囲の山間に散在しております。壮年層は年々少くなり、寺の仏壯会長を七年つとめさせていたよきました。はじめは五十人足らずの会員でした。人集めにいろんなことをやつてみました。研修旅行・ソフトボール大会など計画したり、春の花見で研修会に誘つたり。

それから「敬老報恩講」というのを始めました。その「敬老報恩講」というのを紹介してみます。先程申しました通り私達の地方は過疎地です。もう何年も前から超高齢化社会に入つております。独居老人・寝たきり老人が年々増えています。私達の地方のこれからの最大の問題はこの老人をどう診取つてゆくかということと。

さしづめ私達は考えました。足腰が立たないためにお寺にも参れない、遠いお寺のご法座にお参りする便もない、独りでさびしい余生を過ごしておられる田舎のお年寄りたち。これはしかし人事ではあります。これらのお年寄りは、ついこの間まで私達を導いてくださった「みのりの先輩」です。いえそれより何より私達もやがてはこのようなにならないと、いふ事なの、また仏壯の仕事として適当な事なのか多少の不安をいだきながらこの敬老報恩講を始めたのです。

七十歳以上ご門徒の方々に案内状を差上げます。「お迎えに参りますからどうぞお参り下さい。いっしよに開法させていただきますと思ひます。」マイクロボスをチャーターして仏壯役員が谷々の村むらに迎えにまいります。いつしよに「お正信偈」のおつとめをします。ご住職のご法話のあとお年寄り好みの「法縁浪曲」などのスライドを映写します。それが終つたら、仏

の人達の作つてくれたお料理をいただきながら、仏壯・仏婦会員の舞踊などを楽しんでいただきます。帰りももちろんバスでお家まで送りとよけます。

なんでもない事ですが、第一お年寄りが喜んでくださいます。来年の敬老報恩講を楽しみに待つていてくださいます。そういうかたちで、仏壯・仏婦の活動がご門徒全体から認められてきたのだと思ひます。始めてから十年、今では敬老報恩講だけではなかつたのかご法座のときにもマイクを出したり会員の自家用車で送り迎えをしております。そういう活動をしてくれて、今気がついてみたら、仏壯役員も始めの三倍強、全門徒の壮年のほとんどが役員になつていたと言ふのが私の寺の仏壯の実態です。

組織の拡大ということ、とにかく何でも動かないで自然にぼつぼつ出来ていくものと、私は今思つていふようなことと。おはずかしいような事でしたが、私達のさゝやかな活動からの意見をのべてきていただきました。

出石組仏教壯年会総会

第十回出石組仏教壯年会
日時 昭和六十三年七月三日 日曜日
会場 勝林寺 本堂にて
出石町内 07965213083
閉会式 午前十一時 予定
このご縁にお会い出来ず事をお待ちしています。

材料 高野豆腐40g / かつくり粉大さじ2弱 / 揚げ油適宜 / だしカップ1 / みりん大さじ1 / 砂糖大さじ1弱 / しょうゆ小さじ1/2 / さやいんげん80g
作り方 高野をぬるま湯でもどしカタクリをまぶして揚げる。分量の調味料で込む。付け合せにインゲンを添える。